

クリスタリナ・ゲオルギエバ

Kristalina Georgieva



概要

クリスタリナ・ゲオルギエバは、世界銀行や欧州委員会で幹部・管理職として影響力ある公職を歴任し、リーダーシップやマネジメントの幅広い経験を持つ。経済学者として経験を積んだゲオルギエバは、健全な経済政策や持続可能な開発、男女平等、貧困削減の推進において最先端に立ってきた。自然や人が要因となるショックに対する耐性を高める必要性を早くから呼びかけた提唱者の1人である。

世界銀行 最高経営責任者 (CEO)

ゲオルギエバは2017年1月より世界銀行の最高経営責任者(CEO)を務めており、世界銀行の多様で優秀な職員が発展途上国にとって最も大きなニーズに焦点を当てるように、優れた成果を生み出せるように、リーダーシップを発揮している。ゲオルギエバは世界銀行史上最大の資本増資を実現する上で重要な役割を果たし、意欲的な内部改革と方針施策を導入して世界銀行が投資を拡大し、機関の使命を果たす能力を大幅に強化した。低所得国や脆弱国に資源を動員するために国際社会の支援構築に尽力した一方で、世界銀行グループ内5機関の協力促進に欠かせない貢献を行った。ジム・ヨン・キム氏が世界銀行総裁を退任する発表を行った後には、2019年2月から4月にかけて暫定総裁を務めた。

欧州連合(EU)

2010年2月から2016年12月、ゲオルギエバは欧州委員会にて、欧州連合の課題設定を支えた。国際協力・人道支援・危機対応を担当する欧州委員として世界最大規模の人道支援予算を管理し、世界で危機の影響を受ける人の数が増えつつある中、こうした人々の擁護者としての役割を担った。EUの「市民保護メカニズム」創設を指揮し、災害がますます頻繁かつ深刻化する中で、その効果的な予防、事前対策、災害時対応に向けて、EU加盟国の能力を結集した。予算と人的資源を担当する副委員長として、ゲオルギエバは1,550億ユーロのEU予算と世界で33,000人の職員を監督した。EUの予算改革を主導し、欧州の難民危機に対応するための資金を3倍に拡大した。欧州債務危機に対処するために、欧州委員会で積極的な役割を担った。

世界銀行での 職歴

欧州委員会で勤務する前、ゲオルギエバは世界銀行に17年間勤めた。1993年に欧州と中央アジアを担当する環境エコノミストとして採用され、1998年に環境担当の管理職、その後、東アジア・太平洋地域の環境・社会開発担当局長に任命された。2000年に世界銀行の環境担当局長となり、厳格な経済分析の公害防止分析への応用、生態系サービスに対する支払い(PES)概念の推進、環境に配慮した経済成長を支持する方向への世界銀行の方針転換、炭素市場の発展を推進した。2004年にはロシア連邦担当局長としてモスクワに駐在し、全体で20億ドルの予算が割り当てられたプロジェクトを担い、政府保証なしでの融資など新しい金融商品の導入を担当した。2007年から2008年の間は持続可能な開発担当局長を務め、世界銀行グループによる融資全体の約3分の2を監督した。2008年から2010年には、世界銀行の副総裁兼官房長を務めた。2008年の世界金融危機の後、世界銀行のガバナンス改革と改革に続く増資に大きな役割を果たし、世界銀行幹部、理事会、出資国の間での対話を調整した。

受賞歴

2010年にゲオルギエバは、EU人道危機対応で発揮したリーダーシップを理由にヨーロッパアンボイス紙の「今年の欧州人」「今年の欧州委員」に指名された。デベックス社はゲオルギエバを国際開発分野で最も影響力のある女性の1人として認めている。責任ある国際主義と、国際問題に関する人々の知識を高めたことが評価され、Emerging Europe社から功績を称える賞、また、外交政策協会(Foreign Policy Association)からメダルを授与されている。ゲオルギエバは国連人道資金の調達に関するハイレベルパネル共同議長を務めた一方、潘基文とビル・ゲイツの両氏とともにGlobal Commission on Adaptationの共同議長の役を担っている。経済と気候に関する世界委員会(Global Commission on the Economy and Climate)と持続可能な開発のためのブロードバンド委員会(Broadband Commission for Sustainable Development)のメンバーである。

学歴と教職

ゲオルギエバはブルガリアのソフィア出身。1953年生まれ。ソフィアにある国家世界経済大学で政治経済学と社会学の修士号、経済科学博士号を取得。1977年から1991年には同大学の教授を務めた。1987年から1988年にはロンドン・スクール・オブ・エコノミクス博士研究員であった。1991年から1992年にはフルブライトフェローとして、マサチューセッツ工科大学(MIT)大学院にて「移行経済」を共同で教えた。1996年、ゲオルギエバはエグゼクティブ研修プログラムを受講し、ハーバード経営大学院からファイナンスプログラムの修了書を受け取った。これまでに100を超える出版物を執筆しており、ブルガリア語で初めてのマイクロ経済学とマクロ経済学の教科書を出版している(マクロ経済学の教科書は共著)。ハーバード大学、モスクワ国立大学、マサチューセッツ工科大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、清華大学、南太平洋大学、オーストラリア国立大学など世界中の大学で講義を行ってきた。

言語

母語であるブルガリア語に加えて、英語とロシア語を話す。
また、実務フランス語の知識も持つ。